

地方創生関連交付金事業の効果検証について

1 あかしSDGs 前期戦略計画（明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期））（2022～2025年度）の概要

(1) 位置づけ

あかしSDGs 推進計画（明石市第6次長期総合計画）に基づき 2030 年のあるべき姿「SDGs 未来安心都市・明石」の実現に向けたまちづくりの戦略を定める中期計画です。また、明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）を兼ねています。

(2) 2030 年のあるべき姿



(3) まちづくりの数値目標

2025年度の目標

① 住みやすいと思う人の割合 95%

2019年：91.2% → **2025年：95.0%** → 2030年：100%

※2030年度の目標を100%として、その中間とします。

② 総人口 30万人

2020年：303,601人 → **2025年：300,000人** → 2030年：300,000人

※2030年までの目標を30万人の維持とします。

(4) 施策展開の5つの柱

- 柱1 豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める
- 柱2 笑顔あふれる共生社会をつくる
- 柱3 こどもの育ちをまちのみんなで支える
- 柱4 安全・安心を支える生活基盤を強化する
- 柱5 まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す

2 交付金の概要

(1) デジタル田園都市国家構想※交付金（地方創生推進タイプ）

目 的	地方版総合戦略に基づいて地方公共団体が自主的・主体的に行う、観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組などを支援する。
対 象	地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業（主にソフト事業）
負担率	国 1/2 市 1/2

※デジタル田園都市国家構想とは、デジタルの力で、地域の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図り、「地方に都市の利便性を、都市に地方の豊かさを」を実現して、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す構想。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

目 的	地方版総合戦略に基づいて地方公共団体が自主的・主体的に行う、観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する拠点施設の整備などを支援する。
対 象	地方版総合戦略に基づき地方公共団体が自主的・主体的に行う、地方創生に資する拠点施設の整備及び当該施設と一体となってその効果を一層高めるために必要な事業（主にハード事業）
負担率	国 1/2 市 1/2

3 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

（2024 年度（令和 6 年度）の効果検証）

事業名	地域資源「明石のたからもの」を活用した魅力と賑わいの向上
主管課	政策局シティセールス課、政策局天文科学館、環境産業局豊かな海づくり課、都市局公園・海岸課
総合戦略 5つの柱	柱1 豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める 柱5 まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す
事業目的	時のまち・明石として天文科学館の魅力を高めるとともに、海のまち・魚のまち明石のPR・イベントを実施し、あわせて豊かで安全な海づくりを進めることで、関係人口・交流人口の増加を図り、ひいては定住人口の維持・拡大へつなげる。
事業内容 (2024 年度)	<p>①地域資源「明石のたからもの」の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明石たこ大使さかなクンによる、こども達と一緒に明石の海の魚や海の大切さを学ぶイベント「明石たこ大使さかなクンのおさかな市場」の実施、また、ひょうごフィールドパビリオン※への参加などを通じて、「海のまち」「魚のまち」といった明石の魅力発信を行った。 ※ひょうごフィールドパビリオン：大阪・関西万博の開催を機に、兵庫県の様々な持続可能な取組を国内外に伝えるため、県全体を展示館（パビリオン）に見立て、地域のSDGsを体現する活動の現場（フィールド）を地域の人々が主体となって発信し、多くの人に見て、学び、体験していただく兵庫県オリジナルのプログラム。 ・明石の子育て支援施策や住環境について、ホームページをリニューアルしたほか、LINE等のSNSを活用した情報発信を行った。 <p>②天文科学館の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動式プラネタリウム投影機を更新し、市内小中学校を中心に活用する場を増やし、プラネタリウムの更なる魅力発信を行った。 ・来館者の時と宇宙に関する学習の充実を図り、また、より快適に滞在してもらうことを目的とし、館内展示エリアのリフレッシュを行うとともに、日本標準時子午線を中心とした館のPR強化を目的とし、館内外において、フォトスポットや立体サインなどの整備を行った。 <p>③豊かで安全な海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダコ資源量確保に向けた施肥※や産卵用タコつぼの投入とその効果測定のモニタリング調査を行った。 ※施肥：海に肥料を撒き、プランクトンのエサとなる窒素やリンを増やす取組。 ・漁場環境を整え、生産力を増大させるため、明石だこをはじめ有用魚類の棲み処となる、鋼製魚礁を設置した。 ・生物多様な豊かな海を実現するため、アマモ※場の造成を行った。 ※アマモ：波の穏やかな内海や内湾域の砂泥域に生育する沈水性の多年草。アマモが大規模に繁茂した群落は「アマモ場」と呼ばれ、生きものの生息・産卵・保育場所として機能する。 ・水上バイクの進入を防ぐためのフロート及び啓発看板を設置した。




事業費 (千円)			1 年目 (2023)	2 年目 (2024)	3 年目 (2025)	合計	
	事業費	交付決定額	37,728	65,952	55,983	159,663	
		実績額	37,721	64,495			
	交付額	交付決定額	18,864	32,976	27,992	79,832	
		確定額	18,861	32,247			
	<2024 年度事業費内訳（主なもの）>						
	① 地域資源「明石のたからもの」の情報発信 9,362 千円						
	・海のまち・魚のまち明石 P R（委託料） 2,854 千円						
	・天体ショーライブ配信イベント等を通じた時のまち明石 P R（委託料） 660 千円						
	・子育て支援施策や住環境等の情報提供（委託料） 2,141 千円						
・大阪・関西万博に関連した明石の P R（委託料） 3,707 千円							
② 天文科学館の魅力向上 27,555 千円							
・館内外デジタル展示等整備（委託料） 24,060 千円							
・移動式プラネタリウム投影機の更新（備品購入費） 2,999 千円							
・デジタル地球儀の導入（備品購入費） 394 千円							
・憩いの場の整備（シェード・ベンチ）（備品購入費） 102 千円							
③豊かで安全な海づくり 27,578 千円							
・産卵用タコつぼや施肥の投入とモニタリング調査の実施（委託料） 12,000 千円							
・魚礁の設置（負担金） 6,500 千円							
・アマモ場の造成（委託料） 1,000 千円							
・水上バイク進入防止フロート、啓発看板の設置（工事費） 8,078 千円							
重要業績 評価指標 (KPI)	①観光入込客数（2020 年度：480 万人）						
	②天文科学館入館者数（2022 年度：9 万人）						
	③マダコの漁獲量（2022 年度：130 t）						
実績値			1 年目 (2023)	2 年目 (2024)	3 年目 (2025)	目標値 (2025)	結果
	K P I ①	4,800,000	5,042,675	5,030,812		5,100,000	-
	K P I ②	90,000	117,452	116,806		125,000	-
	K P I ③	130	207	231		1,000	-
実績値の 増減理由	K P I ①：観光入込客数						
	・観光施策やシティプロモーションの効果が一定程度見られるものの、台風や天候不良によるイベント中止等により、横ばいでの推移となった。						
	K P I ②：天文科学館入館者数						
	・プラネタリウム 100 周年記念事業をはじめ、様々なイベントを通して、プラネタリウムの魅力発信、時のまち明石の P R を行った結果、昨年度並みの入館者となった。						
	K P I ③：マダコの漁獲量						
	・施肥や海底耕耘※ ¹ 、かいぼり※ ² 、産卵用たこつぼの設置、稚ダコ放流※ ³ など、漁業関係者や関係機関とも連携しながら行っている資源保全に向けた様々な取組の影響があったと考えられる。						
	※1 海底耕耘（かいていこううん）：海に投入した鉄製器具「耕耘桁（けた）」をロープで曳き、海底を耕す取組。海底に沈んでいる栄養塩を放出することで、海中の環境が改善され、海底の生き物や魚の生息場が創出される。						
	※2 かいぼり：農作業が終わる冬季に農業者と漁業者が連携して、池内の泥を掻						

	<p>き出してため池の水を抜き、池の水や底にたまった泥に含まれる窒素やリンなどの栄養分をポンプの放水によって海に放流する取組。</p> <p>※3 稚ダコ放流：マダコは孵化後 20～30 日浮遊し、その後着底して生活するが、浮遊期は遊泳力が乏しく捕食される可能性が高い。そこで、着底した稚ダコ（マダコ種苗）を量産し、マダコ種苗を隠れ家となるノリ網やカキ殻と一緒に海へ放流する取組を行っている。</p>
事業効果	<p>【事業を実施した効果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪・関西万博を契機とした地域の魅力発信やプラネタリウム 100 周年記念事業、天体ショーライブ配信イベント等を通じた時のまち明石の P R を行うことで、交流人口・関係人口の増加につながった。 ・施肥、産卵用タコつぼの投入など資源保護の取組や魚礁の設置など漁場環境を整える取組を実施することで、マダコの漁獲量の増加、また、生物多様な豊かな海の実現につながっている。 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連イベントを通じて、海のまち明石・魚のまち明石を P R していくとともに、豊かな海・海の大切さを発信していく。 ・①・②について、記念イベントを契機として、地域資源や地域の魅力発信を積極的に行う。 ・③のマダコの資源量確保に向けて、引き続き産卵用タコつぼの投入など資源保護の取組と、施肥の投入など栄養塩類の供給による生育環境の改善の取組を行う。
外部有識者 （あかし S D G s 推進審議会委 員） の評価	<p>1 評価（該当する番号に○）</p> <p>① 本事業は、地方創生のために有効であった。</p> <p>② 本事業は、地方創生のために有効とはいえなかった。</p> <p>2 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催や地域の魅力発信、マダコの資源量確保等の実施は地方創生のために有効であったと考えられるが、いずれの K P I も目標値に達しておらず、その効果は限局的であり、最終的な目標値の達成が危ぶまれる。予算は限られているが、これまでの事業全般を見直し新たな取り組みの展開を期待する。 ・明石たこ大使によるイベントや大阪・関西万博関連イベントを通じて、海のまち明石、時のまち明石、住み続けられるまち明石の魅力を発信することは一定の効果があったと考えられるが、K P I の達成には至っていないので、新たな取り組みが必要である。 ・デジタル技術を活用することで、プラネタリウムの更なる魅力発信ができています。 ・明石市内の海岸などではバーベキュー等で楽しむ若者が多いが、飲食後のごみの持ち帰りなど、海岸周辺の環境美化の周知を図っていただき、美しい海岸と賑わいの風景など明石の特徴について S N S 等で積極的に発信してほしい。 ・マダコの漁獲量は気候の影響が大きいですが、漁業関係者や関係機関とも連携して、栄養塩類環境の改善や資源量の保全に向けた様々な取組を行っている努力は評価される。しかし、目標とした K P I には大きく及ばず、同様の取り組みでは限界がある。目標値達成のためには、予測値を大きく下回った要因を探求し、漁獲量の増加につながる取り組みを検討いただきたい。

4 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

（2024 年度（令和 6 年度）の効果検証）

（1）2020 年度（令和 2 年度）交付決定事業

事業名	(仮称) 文化財収蔵庫整備事業							
主管課	市民生活局文化・スポーツ室							
総合戦略 5つの柱	柱5 まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す							
事業目的	<ul style="list-style-type: none">・文化財収蔵庫を設置し、旧図書館などに分散して保管している埋蔵文化財の出土資料について、適切に保存し、地域の歴史に触れ、啓発できる資料とするとともに、長年にわたり市内で収集してきた工芸品、古文書、土器等の特色ある歴史資料を保存・活用することで、未来を担う子どもたちが明石の歴史や文化を学び、また、歴史資料を介して地域の専門家等と交流するなど地域の人を知る「ふるさと教育」を実践することで、地域に対する誇りと郷土愛の醸成及び未来を担う次世代の育成を図る。・地域で長年にわたり育まれてきた生業・生活文化について、幅広い世代が再認識し、地域の未来の在り方を皆で支える場の提供をセットで実施することにより、自らの地域をよく知り、将来的なUターンや地域の将来を考える人材確保につなげ、若者の地元離れ及び東京圏への転出に歯止めをかける。							
施設概要	<div><div>魚住文化財収蔵庫</div><div>(1) 施設の概要</div><div><div>①位置／明石市魚住町西岡鴨台 2119 番地の 23</div><div>②敷地面積／約 2,711 m²</div><div>③階数／地上1階</div><div>④延床面積／約 1,386 m²</div></div><div>(2) 施設の主な機能</div><div>施設が整備されることにより、地域や地域の人を知る「ふるさと教育」の実践により、地域で活躍する様々な人と広く交流を持ち、互いに協力する機会を提供するとともに、地域に対する誇りと郷土愛の醸成及び未来を担う次世代の育成や地域活性化を図る。</div><table><thead><tr><th>機能</th><th>内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>埋蔵文化財資料等の保存</td><td>○収蔵室／約 984 m² ○作業室／約 74 m²</td></tr><tr><td>地域の歴史・文化の発信と伝承</td><td>○展示室／約 147 m²</td></tr></tbody></table><div>(3) 開設年月日</div><div>2022 年 2 月 17 日 (木)</div></div>	機能	内容	埋蔵文化財資料等の保存	○収蔵室／約 984 m ² ○作業室／約 74 m ²	地域の歴史・文化の発信と伝承	○展示室／約 147 m ²	
機能	内容							
埋蔵文化財資料等の保存	○収蔵室／約 984 m ² ○作業室／約 74 m ²							
地域の歴史・文化の発信と伝承	○展示室／約 147 m ²							
事業内容 (2024 年度)	<div>【文化財出土資料整理事業】</div> <ul style="list-style-type: none">・作業室において、市内から出土した埋蔵文化財の洗浄・接合・実測を実施し、その適切な保存に努めた。 <div>【展示公開事業】</div> <ul style="list-style-type: none">・収蔵庫に保管されている文化財を公開する企画展を実施し、こどもをはじめとす							



	る市民が、歴史や文化を身近に感じられるように、文化財に触り、体験できるコーナーを設置するなどの工夫を行った。（年3回、来場者：719人） ・地域の専門家を講師に迎え、こどもから大人までを対象としたワークショップを開催した。（1回、参加者：18名）							
事業費	2021年度（整備費）：実績額 194,957千円　うち交付金額 97,479千円							
重要業績 評価指標 (KPI)	①明石市立文化博物館入館者数（2025年度:50,000人） ②市内の指定・登録文化財の数（2025年度:70件） ③刊行物の発行数（2025年度:1,500部）							
実績値		(参考) 開始前	1年目 (2021)	2年目 (2022)	3年目 (2023)	4年目 (2024)	5年目 (2025)	結果
	K P I ①	35,000	－	42,222	44,489	55,092		－
	K P I ②	66	－	67	69	71		－
	K P I ③	1,300	－	1,582	2,500	2,500		－
※2022年2月に開設したため、K P Iは2年目（2022年度）から計上。								
実績値の 増減理由	K P I ①：明石市立文化博物館入館者数 ・多様なニーズを踏まえ、工夫した展覧会を開催し、来館者の増加に努めたことにより、来館者が増加した。 K P I ②：市内の指定・登録文化財の数 ・候補物件の掘り起こしや調査研究を実施し、その文化財的価値を着実に高めることで、指定文化財の数が増加した。 K P I ③：刊行物の発行数 ・前年度と変わらず、地域における調査・研究結果をまとめた刊行物を3種類発行した。							
事業効果	【事業を実施した効果と課題】 ・貴重な埋蔵文化財を劣化から守るとともに、収蔵庫に保管している文化財を展示する企画展を実施することで、地域の歴史・文化の普及・啓発が図られた。 ・文化財等の歴史資料を良好な環境で保存することで、体系的な調査・研究を行う体制が整い、新たな魅力の発掘や発信に役立った。 【今後の取組】 ・引き続き、展示室で文化財を分かりやすく紹介することで、子どもをはじめとする市民が地域の歴史・文化に興味を持ち、また、理解が深まるように努める。							
外部有識者 (あかしSDG s推進審議会委 員) の評価	1　評価（該当する番号に○） ① 本事業は、地方創生のために有効であった。 ② 本事業は、地方創生のために有効とはいえなかった。 2　意見 ・すべてのK P Iが目標値に達しており、地元への愛着を育むことによってサステイナブルなまちづくりに貢献し、地域の歴史や文化の普及・啓発に大きくつながっていると考えられる。 ・指定文化財の増加は、地域の魅力や価値の向上に寄与すると考えられる。 ・地域の歴史を知る上で貴重な文化財について、適切な環境で保存できるとともに							

	<p>文化財の体系的な整備・活用にもつながっていると考えられる。高齢者や障がい者にもわかりやすい展示方法や情報発信を工夫するなど、引き続き文化博物館入館者数の増加・維持に努められたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関や地域の専門家と連携した取組や企画を行うことで、引き続き当施設が地域の歴史・文化の発信と伝承を担う施設となるよう努められたい。
--	---